

2024.3.21



地域日本語支援ニュース こだま 第 441 号

ともに生きる  
～地域で、日本で、そして世界で～



★―― メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。――★  
【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★―― 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。――★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

---

== 目次 ==

1 ■ 電話インタビュー：令和 6 年能登半島地震 ■

2 ■ ともに生きる：広島県呉市より ■

=====

1 ■ 電話インタビュー：令和 6 年能登半島地震 ■

中谷なほさんは青年海外協力隊の料理隊員としてジンバブエ、ウガンダで活動、帰国後に石川県珠洲（すず）市へ移住し、現在は牧場の仕事に携わっています。

国を越えての人との交流をどこでも大事にし、珠洲市でも技能実習生たちとの交流や日本語サポートにも携わっていました。今年 1 月 1 日の能登半島地震の際は珠洲市近隣の能登町で被災し、今もなお復興の途上ですが、貴重なお話をお電話でうかがうことができました。

-----

石川県珠洲市 在住  
中谷 なほさんに聞く

#### ◆2024年1月1日

その日は珠洲市の隣、能登町の温泉にいました。激しい揺れがおさまったあと、予測されていた大地震が来たのだと思いました。奥能登では大小の地震がこの数年続き、今後も来るといわれていたからです。道路が駄目だということだけ聞き、珠洲まで帰れるかわかりませんでした。情報が少なく、その不安の中で数日を過ごしました。

地震の被害は相当らしいと感じました。ただ電波障害によって電話が使えず、ラジオの全国ニュースでしか情報が得られませんでした。細かい地域のごことはわからず、どう行動したら良いかの判断材料が不足していたことが大変でした。

予想外のことが起きており、災害状況を把握することもできなかったというのが現状でした。

珠洲市では、お正月の帰省で人口が平常よりかなり多くなっていたそうです。そのため、当初の避難所では想定外の人数に対応することになったようです。

私自身は能登町の避難所で3日間、さらに珠洲の自主避難所で10日ほど過ごしました。

#### ◆技能実習生たちの被災

私が交流のあった技能実習生、特定技能外国人の人たちも被災しました。彼らは珠洲市内の漁業や食品加工業、縫製工場で働いていた人たちです。他の地域の人同様に、彼らの中には仕事の再開の目処（めど）がたたない人もいます。市外や県外に移動を余儀なくされた人たち、心的ストレスのため帰国をした人もいます。町が復興に向かうなかで、同じ地域に暮らす者として日本人と技能実習生など外国人市民の皆さんが、より親しい関係を築いていけることを願っています。

#### ◆電話での聞きとりを終えて

私の家族も穴水（あなみず）町で被災し、金沢からの道路が復旧したので2月10日に片付けに行きました。そんな中、中谷なほさんを知ることができ、お電話だけですが、お話をする機会を得ました。この大変な状況の中で貴重なご体験をお話いただき、感謝しています。

一日も早い復興を応援したいと思います。（聞き取り：編集委員 松尾）

---

## 2 ■ともに生きる：広島県呉市より■

広島県呉市の「ひまわり 21」は 1993 年に呉市が開いた日本語教室を運営し、外国人市民と地域の市民をつなぐさまざまな活動をしています。その中でも「せかいの花」は 2018 年開始の新しい活動です。主婦の方が主に参加しています。参加者全員で一緒に考えて作っていくことを大切にしています。「自慢の教室」と呼んでいる姜さんに紹介していただきます。

---

日本語教室は、枝が生い茂った大きな木  
～体験に根ざしたコミュニケーション学習～

姜 紅タ（きょう こうた） 日本語教室「せかいの花」メンバー

### ◆いろいろな活動があって心豊か

17 年前に中国から来て、ずっと日本語教室に通っています。私が通い続けている自慢の日本語教室の魅力をお話ししたいと思います。

日本語教室「せかいの花」では、いろいろなことを楽しみながら、日本語を覚えることができます。地域の人と交流して、コミュニケーションすることを大切にしています。一年中いろいろな活動があって、内容が豊かです。また大雨や台風の警報が出た時には、すぐに注意を呼びかけてくれます。教室の誰かが調子が悪い時は、心配してくれます。そんな時、私の心はすごく温かくなります。日本語教室は私にとって、枝が生い茂った大きな木のような、お母さんのような存在だと感じます。

活動をいくつか紹介します。

### ◆5月 手芸

手芸は、私たちと同じように「広（ひろ）まちづくりセンター」で活動している「手芸サークル」の人たちと一緒に、「中国結び」を習いました。なごやかな雰囲気の中で、とても楽しかったです。日本語で交流しながら、日常生活に必要な言葉と知識を身につけることができました。

### ◆8月 9月 学校給食にチャレンジ！

8月には、子供に「学校給食の中で好きな料理」を聞くことになりました。私たちは日本の給食を食べたことがないから、すごく興味を持っていました。作り方や味つけも気になっていました。

そこで日本語教室でも「給食人気メニューづくり」にチャレンジしました。そのあと、家でも作ってみました。子供たちが手伝ってくれて、「おいしい」って言うてくれて、うれしかったです。給食の先生たちの苦勞と努力がよくわかりました。感謝の気持ちを持って食べてほしいと思いました。11月には地域の皆さんと一緒におしゃべりしながら作って楽しかったです。このような、体験に根ざしたコミュニケーション学習は、本当に効果が高いと思います。

◆11月 県北バス旅行 「県北国際フェスタ」に参加 神楽（かぐら）鑑賞  
土曜日の日本語教室の皆さんと一緒に、「秋の県北バス旅行」に行きました。

はじめに「県北国際フェスタ」に参加して、会場に来ていた人にアンケートしました。皆さんは親切に答えてくれて、たくさんお話しすることができました。秋晴れの中、会場にはいろいろな国の料理の屋台が並んでいました。どの料理も美味しくて、よだれがあふれ出ました。歌を聴いたり、みんなで踊ったりして、外国の雰囲気を楽しみました。

次に行った「神楽門前湯治村（かぐらもんぜんとうじむら）」では、神楽『山姥（やまうば）』を観賞しました。言葉はよくわからなかったけど伝わってくるものがあって、演技がすごくうまいと思いました。一瞬で衣装が変わった時は、ビックリしました。素晴らしかったです。

最後に湧永庭園（わくながていえん）の自然の中を散歩しました。のんびり歩きながら神楽の味わいについての話が尽きなかったです。私たちはリラックスできた秋のバス旅行に、大満足しました。

◆元気になれる所、心のよりどころ

私たちの日本語教室「せかいの花」は、元気になれる所です、楽しい所です。辛い時、さびしい時は、先生たちや学習仲間に相談すると、何か良いアドバイスをもらえて解決できます。支えてくれる人たちがいるから、私たちの心のよりどころです。

また、教室のおかげで学習者の中にいろんな繋がりができて、あちこちで「花」が咲いています。

みんなの日本語教室だから、学習者の力も大事だと思います。積極的に参加して先生たちの手伝いもして、みんなで素敵な教室を続けていきたいです。

地域にこんな素晴らしい日本語教室があるのは、とてもありがたいことです。呉市に住んでよかったですと思います。私たちを応援してくれる皆さま、ありがとうございます。

-----  
姜紅夕さんはこんな人      (ひまわり 21 代表 伊藤美智代)

2006年、地域日本語教室「たのしいにほんご」で初めて紅ちゃんに会いました。赤いほっぺと初々しいニコニコ顔が印象的な19歳でした。以来、自分の生活に合わせて、土曜日夜の「日本語教室《呉》」や木曜午後の「漢字教室」にも参加。

2018年には、参加者全員が話し合っ取り組む教室「せかいの花」を開きましたが、開設とその後の取組を支えてくれています。いつも仲間たちと協力して素敵な「学びあい・支えあいの場」を作ってくれていますし、「ひまわり 21」が地域で進めるさまざまな多文化共生の取組でも、彼女は率先して行動して活動を支えてくれています。

-----